

於て社會階級の見地よりしての差違を著し得た大倉男爵は如何。今日勤王は古稀以上であるが明治維新前後から江戸に上つて来た時には天祥神槍の一匹夫に過ぎなかつた。又今日一流の實業家である所の福部金太郎氏の如き其他大橋新太郎氏の如き孰れも夜店街頭に古本を賣り古時計を商ふた謂はれ敗殘の一流人であつたといふ語である。其他今日のブルジョワジー(Bourgeois)の大立物にして著作版築の階級なるプロウリテアリヤット(Proletariat)より身を立てたものは動かない。此等の人士は労働の偉大化を實現し「功成り事遂げ」た一面の模範的實例であつて揚揚者其物の發展し得る所以を談るサイレント、スポークスマン(Silent Spokesman)である。(以下次號)

異口同音集

はし書 綠堂負將誌

社會に於ける有らゆる階級者の對労働の意見を徴するのには、吾等労働問題を提げて、將來の舞臺に躍ひ、其の最も必要なる企てである、富家、

津波家、有善高位の貴公子、政治家學者、宗教家、こんな人々が、どんな意見を以て、我國労働問題を解決せんことを望むるか、大なる興味を以て之れを聴いて、綴つて文と無し、組合員諸君に紹介しやう

海ゆべき者は
労働者は天眞爛漫で殆んど淨き水である、善いもの如何に依つては悪にも善にも、器に依つては方に善にも、又投

米國第一世界の三驚
世界の平和論者海軍軍艦デニエリス。世界第一の海軍軍艦を高揚したは世界が驚いた。平和の調印を請ふ米の海軍を二分し其一半を太平洋に運送せることを命じたは再び世界が驚いた。其運送艦隊内に日本と戦争に爲ることを命じたは第三次世界が驚いた。

する色素に依つては赤にも黒にも爲るものである、故に之を救へ之を導くことが最も大切であらねばならぬ、之れに比すれば資本主は偏執であつて不自覺者が多い、故に今日の自覺を促すものは労働者よりも寧ろ資本主である、とは代議士にして長門字部の炭礦王渡邊祐策君の主張である

凡て事業は營利であるから儲けることに反對は無いが、當時労働者に意を用ひ、

勞資共存の理を會得し、資本主相當の方策を立ねば協調は行はれぬ、資本主が常勞働者を敵の如くに忌み、労働者の團結は資本主に對するの力を大ならしむるものとして、組合などの組織を阻止せんとするは資本主として時代錯誤の甚だしきものである、若し夫れ労働者の團結が惡に強からんとすれば之れを善用して善に強からしむれば實に結構ではないか、然るに多くの資本家は此の理を解しない、今日海ゆべきは労働者よりも寧ろ資本家の方であらう、とは濫澤子爵が見解の一節である

そこで編者は結論する、勞資協調は至極結構であるが、労働者に協調を強ゆる前資本主に協調が強いりたい、協調には労働者の自覺も要するが、資本主に労働者以上の自覺を要する、自覺なき資本主の前に協調は絶對的無いと云つて置く

生活の安定

恒産無き人には恒心無し、労働者に家屋敷を所有せしむるの何より必要で、社會問題も労働問題も直ちに解決する、とは星製藥會社社長星一君の持論である、星君が工場労働者も、事務所の職員も積立金が十五萬圓もあると云ふ、之を以て土地と家屋を所有させる、恒産で恒心

上野の四季

(春)

足曳の山の山野の天玉寺、五重の塔の高けれど。なほ彌や高き武士の雲を貫く忠義心。主家の末路を不忍や。忍が岡に散る櫻。榮枯盛衰定めなし。世や移り。今は昔の遺物を。印に遺す黒門や。尊義の碑に。讀ませても。利石碑は無情をかこつらむ。行くも歸るも別れては。又た來る春に逢坂や。關の戸あけて初音啼く。鶯谷と聞かからに。名さへ床かき花園に。咲きわたるたる櫻木町。彌生の頃の賑ひは。實に花の都と称されけり。

(夏)

夏の暑さの日の暮れて。谷中に月の影清く。涼風をよぐ清水町。田端の蛙音を急ぎ。雨を呼ぶかや情らし。

(秋)

秋の眺めは菊坂や。香り床かき八重垣町。咲き乱れたる黄白の。色を根岸に競ひつ。

(冬)

冬は氷の池の端。雪の浮橋をかけて。鏡に映る厚化粧。辨天衣浦山し。

を遺る、之が貴君の計數である、歐米の戦後に於ける經濟界は、實に慘澹を極めて居る、自分が視察した實況より説こう、各國の労働者は破壊された産業界に生活の途を喪つた、其苦しみはこと日本人の想像し及ばざる所である、殊に甚だしいのは獨乙で、國民の大半はパンなど口には這入らない、餓えて路傍に食を乞ふ者、我へて病むもの、實に目も當てられぬ惨状である、自分は晝食のパーで、餓えた獨乙人に食を與へた、彼等は皆な三日も四日も食ひ得ない、然るに驚いたことには、餓えて死ぬまでも驚かす國家を幾はさぬと云ふ、水を呑んで腹を膨らせ、葉を嚼んで死を防ぐ彼等が口から「私共は飢えて居るが、例とへ死ぬまでも國家を壊はしてはなりません、自分には之れを聽いて驚かざるを得ない、彼等の望み信念は確かに余の心臓を刺した、飢へても國家を壊はしてはならぬ、何んと云ふ立派な信念であらう、日本の現在を以て、動ともすれば思想家や社會主義者が無國境説を高唱する、歐米の惡點をのみ採つて、國家を壊はしてならぬと云ふ美點を葬らんとするは、言語に絶した馬鹿者である、故に余は思想家や學者の理想論は好まぬ、今日に於ける労働

緊急報告

本都理事會を兼て労働問題研究会を開催致す可く候間各組合の役員は萬障繰合せ御出席を乞ふ

場所、下流谷町四六〇 於 福昌寺
日時、六月五日(第一日)曜日午後五時より市内電車天現寺(省線ユビス驛)下車